

2010年3月(第92回)

景気定点観測 アンケート

経済同友会は3月16日、2010年3月期の景気定点観測アンケート調査結果を発表した。
(調査期間:3月4日~3月15日、回答数218名)

景気は今後「緩やかに拡大する」と見る一方、成長戦略には厳しい評価も

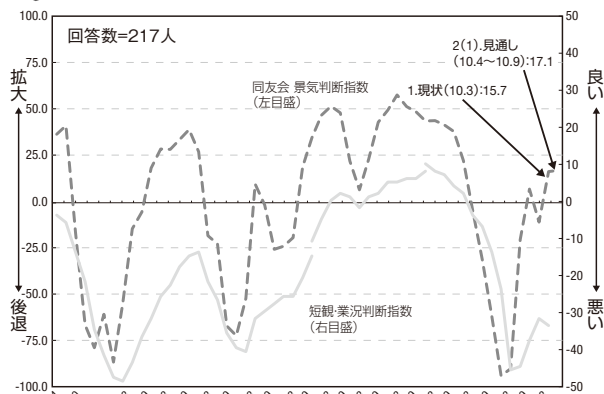
景気の現状については、「横ばい状態が続いている」(52.5%)が最も多かったが、前回調査時に比べ「緩やかに拡大している」が大幅に増加した(21.2%→39.6%)。同友会景気判断指数は15.7と2・四半期ぶりにプラスとなった。今後の景気見通しについては、「横ばい状態が続く」(47.0%)、「緩やかに拡大する」(43.3%)の順に多かった。

今回のトピックスの「新成長戦略(基本方針)」の評価は、「どちらともいえない」(39.3%)、「評価していない」(37.9%)が多かった。数値目標については「現状では厳しいものの、成長戦略を充実すれば達成可能」(60.3%)との回答が最も多く、今後検討を深めるべき施策としては「法人税率の引き下げ」(65.7%)が最多となった。

また、子ども手当については「どちらかといえば望ましくない」(32.2%)との評価が最も多かった。国際競争力については、ものづくりは「依然として世界をリードしているものの、以前ほどの差はない」(47.4%)が最多、科学技術は「かつての優位は失っているが、トップクラスに位置している」(51.4%)が最多だった。

景気の現状について

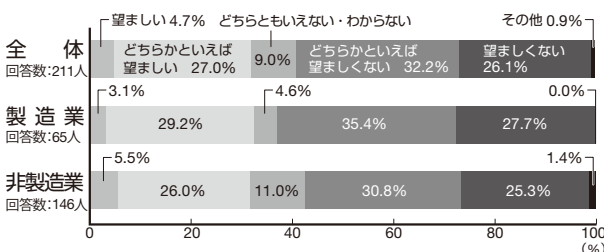
Q 現在のわが国の景気動向をどのように判断されますか。



(注1)同友会 景気指数:アンケートへの答えのうち、「拡大している」を1、「緩やかに拡大している」を0.5、「横ばい状態が続いている」を0、「緩やかに後退している」を-0.5、「後退している」を-1として、それぞれの答えの比率をかけ、合計したものを(「その他」は考慮せず)。
(注2)日銀短観の2010/3は12月調査時点の見通し

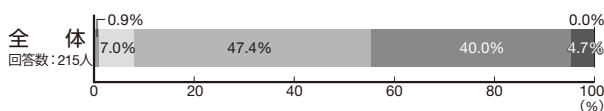
トピックス 子ども手当について

Q 民主党の目玉政策である子ども手当の実施についてどのようにお考えでしょうか。



トピックス 日本の国際競争力について

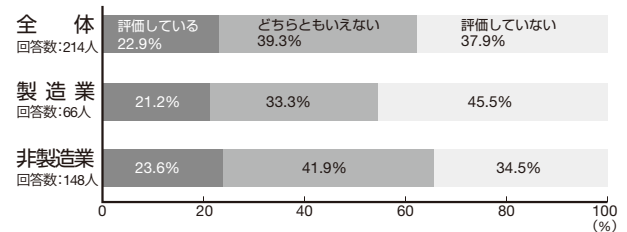
Q 日本の「ものづくり」の国際競争力について、最もお考えに沿うものをお選びください。



トピックス

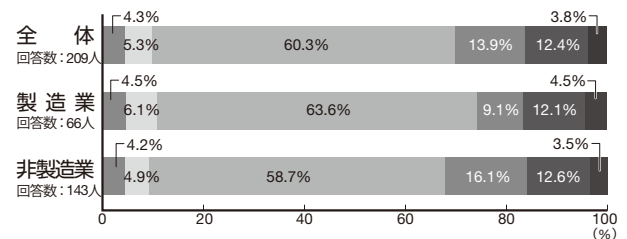
「新成長戦略(基本方針)」の評価について

Q 鳩山政権が昨年末に作成した「新成長戦略(基本方針)~輝きのある日本へ~」について、評価をお聞かせください。



Q 「新成長戦略(基本方針)」では、平均で名目3%、実質2%を上回る成長との目標が掲げられています。この目標について、最もお考えに沿うものをお選びください。

■ 低すぎる目標であり、より意欲的な数値目標を策定すべきである
■ 十分に達成可能であり、望ましい数値目標である
■ 現状では厳しいものの、成長戦略を充実すれば達成可能な数値目標である
■ 高すぎる目標であり、より現実的な数値目標を策定すべきである
■ 高すぎる目標ではあるが、政府が高い目標を示すことに意義がある ■ その他



Q 日本の科学技術について、お考えに沿うものをお選びください。

